

**【栄区】令和3年第2回区づくり推進横浜市議員会議  
議事録**

開催日時	令和3年6月11日（金） 午前11時00分～12時00分
場 所	栄区役所新館4階8・9号会議室
出席者	<p>【座長】大桑正貴議員</p> <p>【議員：2名】長谷川えつこ議員、輿石且子議員</p> <p>【栄区：30名】富士田学区長、藤澤智明副区長、 西野均福祉保健センター長、 井上弘毅福祉保健センター担当部長、 櫻井暁人土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和3年度個性ある区づくり推進費予算について</p> <p>2 会議報告書作成について</p>
発言の 要 旨	<p style="text-align: center;">（説明省略）</p> <p>長谷川議員：明るい選挙啓発事業について、コロナ禍で学校への出前講座はどのような形で実施しているのか。また、学年に応じたPRや、小学校・中学校・高等学校と3回行うことについての効果はどのように考えているのか。</p> <p>伏見総務課長：出前講座は区内全ての小中学校や高等学校に呼びかけし、5校程度に対して実施を予定している。趣旨としては選挙に興味をもってもらうために啓発を行っている。事業として実施しているので、効果検証の必要性を認識しながら今後実施していきたいと思う。</p> <p>長谷川議員：養育者向け情報発信について、新規で栄区妊娠・出産・子育てマイカレンダーと育児に関するリーフレットの作成・配布があり、こちらは内容についてレクチャーを行っていかねばいけないと思うが配布先はどのようなところか。また、子育てをされる方への対面での説明が難しくなっていると思うので、配布物などを強化して、これから子供を産む方たちに安心材料を提供してほしい。</p> <p>和田こども家庭支援課長：栄区妊娠・出産・子育てマイカレンダーは、母子手帳に挟み込めるような形で配布している 育児に関するリーフレットについては乳幼児健診で配布して</p>

いる。レクチャーについては先生のおっしゃるとおりだが、乳幼児健診等もなるべく密にならないように進めており、工夫しながら配布等も進めていきたいと思う。

長谷川議員：家にいる期間が長くなっている昨今なので、ネットや電話の対応なども強化してもらえるとより安心だと思う。

次に生活困窮セーフティネット強化事業について、昨年よりも生活困窮者が増えてきた実感はあるか。また、アウトリーチパートナーの方たちがどういった形で地域の困窮者に向き合っているのかやどういう状態なのかという現場の声は届いたりしているか。

村山生活支援課長：アウトリーチパートナーの方がコロナ禍で生活困窮者の方と相談機関をつなぐ難しさを聞いている。アウトリーチパートナー周知のため、ポケットティッシュの配布を活用しながら相談につなげやすくすることを考えている。

長谷川議員：現場で生活困窮者と向き合っている方たちへの支援を強化していただき、一人でも多くの方の手助けになるような事業してほしい。

興石議員：郊外住宅地の持続可能なまちづくりの推進について予算規模は大分縮小しているが、どういう方向性で考えているのか。

永松区政推進課長：令和2年度に実施した旧庄戸中学校の解体等の概算額を算出する調査委託が終了したため予算が減額している。令和3年度は旧庄戸中学校の後利用の公募に向けた調整や上郷ネオポリスの郊外戸建て住宅の再生に向けた協定にかかる調整に予算を計上している。今後については、栄区がリードして、より地域の皆様が待っているものに近いものができるように進めていきたいと思う。上郷ネオポリスに関しては民間主体ではあるが私たちも何かできることをということで今回協定を結ばせていただいた。郊外の戸建て住宅ということで進めるのは区内でも初めてなので横展開できるようなものがあるか都市整備局等と検討していきたいと思う。

興石議員：コロナ禍の影響もあり企業等が手を挙げやすいインセンティブを行政側から提案するのはさらに困難になっていると思う。提案だが、政策局の共創フロント等でテーマを設定して公募していただく仕組みがあるが、区からそのような提案を働きかけてもらう

ことは可能か。

永松区政推進課長：一昨年度に政策局の共創推進課と一緒にしてもらいサウンディングをした経過がある。テーマ型共創フロントという手法もあると思うが、旧庄戸中学校はまず売却を前提、それが難しいようであれば長期の貸付けという形で、財産を有効活用するというのが市の方向の大前提にある。活用に関しては幅広く検討を進めていきたいと考えている。

興石議員：学校を統廃合した後まちづくりをどうしていくのかという、日本全体に影響を与えることができるような題材だと思う。ぜひ一丸となって横浜市全体で取り組んでいただきたいと思います。

次に安心・安全な道づくり事業について天園ハイキングコースの手すりはどのように整備するのか。

馬場土木事務所副所長：天園のハイキングコースの玄関口になっているところに手すりを整備するというので、令和2年度から令和4年度にかけて実施する予定になっている。昨年度は下段部分を、今年度の下半期に中段部分を、来年度は上段部分をつけて整備を進めていきたいと考えている。

興石議員：今発売中の「横浜ウォーカー」に神奈川県の高尾ハイキングコース特集で、栄区の高尾のハイキングコースが載っている。大勢の方が手に取られる雑誌なので、ぜひPRしていただけたらありがたい。

続いて防災力向上事業について、栄区避難所マップを配った後、どうやってそのマップを見ればいいのか、自分の実態としてリアルに実感してもらうための講座、啓発は実施するのか。出前講座も実施されると書いてあるが、具体的にどんなことを想定されているか。

伏見総務課長：栄区避難所マップは、内水ハザードマップの最新のデータを追加して10月くらいまでに全戸配布を考えている。内容については、区連会を含めて丁寧に説明していきたい。

また、出前講座についても、地域ごとの実情に合わせて浸透していくよう丁寧に進めたいと思う。

興石議員：住民の皆さんの感覚が変わってきているのを実感している。また様子を聞かせてほしい。

防災と関連して、動物適正飼育推進事業に取り組まれていると

思うが、適正飼育に日頃から努めてもらうことで、いざというときの自助努力に結びつくと思う。そのために適正飼育員など地域防災拠点でのペットの扱いについてリーダーシップを発揮してくれる方が人材として必要だと思うが、区として強化していこうというような考え方はあるか。

渡邊生活衛生課長：動物適正飼育推進員に関しては、当初1名だったのが令和2年度は3名に増員している。地域の中で町内会規模であれば動ける方もいるが、推進員になると広い範囲で対応する必要があるため現状は3名だが、今後も機会を捉えて推進員の方々が増えていくような努力をしていく。

興石議員：栄区らしさとして力を入れてもいいジャンルだと思う。次に子育て・子ども応援事業で、妊娠、出産、子育ての取組をまとめていただいているが、昨今不妊治療の結果生まれてくる子どもの数の割合がかなり増えていると聞いている。このような状況の中で妊娠から出産に関して、区への要望や学校での様子の変化など把握していることはあるか。

和田こども家庭支援課長：不妊治療から妊娠されて実際に届出にきたという方の数や変化などについては把握していない。

興石議員：次世代交流ステーションについて、現場を見に行くと、物品の調達等で苦勞されている様子が見て取れたが、予算の内訳はどうなっているか。

小田高齢・障害支援課長：各事業所の賃料等の歳入予算でおおむね800万円、残りの差額のおおむね270万円で、エレベーター管理費などの共用部分の経費について区で負担している。各事業所からの要望があったときには改めて検討させてもらう。

興石議員：横浜市には待機児童を解消したり小さな子供たちと働く女性をサポートするという大きな市の方針があるが、青少年の世代を支えていくことについて明確なビジョンが少し欠けているのではないかと思う。次世代交流ステーションの運営も栄区らしさの一つとして、ソフト面も少しサポートしてあげられるようにしたほうが良いと思う。

続いてパラフェスタ♥さかえや栄区障害理解推進事業について、予算を少し削減しているが、オリンピック・パラリンピックもあるので、障害者スポーツをサポートしていくことは栄区の大

きな柱の一つだと思う。十分な取組ができているという認識でいるか。

小田高齢・障害支援課長：障害者スポーツに関しては、今年度パラフェスタ♥さかえの中で、誰もができるボッチャ大会を開催し、障害のある方もない方も一緒に参加してもらい、障害理解の推進をしていきたいと思う。

栄区障害理解推進事業の予算について、昨年度は障害福祉事業所の「来て見てさかえ」というリーフレットの増刷で経費を計上していたが、今年度はその経費がないので減っている。一方で花のデリバリーについては置き場所を増やして拡充している。

興石議員：フロアホッケーというスポーツがあり、栄区でも大会が開かれたりして、栄区の魅力向上にもつながると思うので、取り入れていただきたいと思う。

最後に改革推進委員会について、これまでも継続してやっている事業かと思うが、この事業で出てくる企画はどんなものが出てきて、どうブラッシュアップしていくかみたいなことを、例えば区民と共有したりするようなチャンスはあるのか。

伏見総務課長：継続してやっている事業で、職場の活性化などの目的でやっているため、基本的に区民の方との意見共有は現状としてはない。

大桑座長：庁舎改善事業について、Wi-Fi などの整備について区としての考え方と、局の取組状況について教えてほしい。

伏見総務課長：デジタル化については、セキュリティーの問題を含めてどこまで整備できるのか局と協議をしていく。

大桑座長：新市庁舎フリーWi-Fi が利用でき、区民の方にもそういう意識が少し出てきていると思うので、検討してほしい。

続いて、区民まつりなどの大きなイベントについては、基本的にはコロナの状況を見ながらという考え方でいいのか。またオンラインでのやり方も含めて考えていく部分もあるのか、考え方が決まっていれば教えてほしい。

富士田区長：いろいろなところで工夫しながらやっているのを参考にしながら、基本はやる方向で準備していきたいと思う。

大桑座長：スクールゾーン・自転車対策事業について、今年の開催状況を教えてほしい。

近堂地域振興課長：昨年は全 14 校から書面という形で対策協議会を開催した。今年についても社会的な状況等考え、現時点では開催も視野に入れているが、昨年のやり方を踏襲していくことも考えている。

大桑座長：対面で行う大切さとコロナ禍での対応、保護者やPTAの方の負担を含めてバランスを取りながら進めていってほしい。また、西本郷小学校で地域の方が刃物を持ってという事件があり、今後区として警察やOBの方を活用できる部分があれば要望して欲しい。

続いて富士山の噴火時の対応について、局で一元的にやっていく話だと思うが、最終的には区で火山灰の置き場所など詰め切っていない部分があると思う。何も無いことが一番だが、ぜひ今のうちから対応してほしい。

富士田区長：意識しながら取組を進めていきたいと思うが、本当に難しいところも多々あるので、いろいろなご意見を頂きながら準備を進めたいと思う。

大桑座長：本郷台駅前周辺のまちづくり推進について今年度中に地区センターなどを駅前の SAKAESTA に移す計画は順調にいつているか。また、旧本郷地区センターの利用の仕方について、区民の方と相談するなどして検討してほしい。

永松区政推進課長：後段についてはご意見を頂戴したことを受けて、どのような形で使えるかの検討の材料にしたいと思う。

近堂地域振興課長：SAKAESTA の指定管理者については、第 2 回市会定例会の議案として議決していただいた。今後は 10 月ぐらいをめどに施設の引渡しを受け、11 月に本郷地区センター、区民活動センターが移転し、12 月 1 日にオープンを目指している。指定管理者としっかり協議しながら進めていきたい。

大桑座長：栄 IC・JCT 周辺のまちづくりについて、地域との意見交換の状況に動きがあれば教えてほしい。

永松区政推進課長：工事については、地域に対して関連街路の説明会を昨年 9 月と 12 月に行い、事業者と共同で工事だよりを毎月発行して、協力しながら進めていると聞いている。令和 7 年度の開通を目指しており、進捗に関して今後も何かあれば共有させてほしい。

	<p>興石議員：本郷台の周辺まちづくりの進捗について SAKAESTA のスケジュールの発表はもうされているか。</p> <p>永松区政推進課長：広報よこはまでも既に SAKAESTA を 12 月 1 日開所予定という形でご案内している。</p> <p>大桑座長：ご発言がないようであれば、本件については以上となる。 会議報告書の作成については座長一任。了承</p>
備 考	